

拝啓、全くのド庶民ながら、縁有って「覚者」になったからにはと、虚仮の一念で始めた「救世手紙作戦」も、これが最終の十二通目です。

就きましては二〇一五年七月七日、徳仁皇太子（現天皇）から受けた「最敬礼」の実際をお伝えして、本作戦全体の真実性の証に代えたいと思います。

全く不思議なことですが、本件にも「警察」が色濃く関与しているのです。

私は朝十時半ごろ、東京は青山通りの永田町付近に、天皇直訴用大型トレーラーを停めて、皇居から赤坂御所へ帰られる皇太子の車列をお待ちしていました。

そこへ突然、金筋入り制帽を被った上級警察官がバイクで飛んで来て「所轄警察ですが、急いで内堀通りへ回ってください」と指示されたのです。

私は、そんな願ってもない場所へ一体なぜと不審に思いながら、既に交通規制されて一般車両が全く居ない、最高裁判所前辺りに自車を止めました。

すると直ぐに皇太子の車列が半蔵門を出て、こちらへ向かって来られたのです。

そして、運転席の窓から身を乗り出して大きく両手を振っていた私に対して、御料車の後部座席に座られていた皇太子が、わざわざこちら向きに座り直されて、二つ折れになるほど深々とお辞儀してくださいったのです。

私は啞然としながら見送ったのですが、その頭は元に戻らないままでした。

そんな「最敬礼」から丁度十周年目の昨年七月七日、徳仁天皇は、前日六日から皇后共々国賓訪問されていたモンゴルで、独り非公式外出しておられるのです。

どこへ行かれ誰と会われたのか一切公表されていませんが、もしも救世手紙七の「神推測」通りなら万々歳です。皆様はどう思われますでしょうか。